



復古繪本絵ばなし集

ほろ出版

昭和期1

# 一寸法師 舌切雀

昭和3年 画・文：初山滋 誠文堂刊

昭和3年 画・文：武井武雄 誠文堂刊

『コドモエホンブンコ』シリーズのうちの2冊。このシリーズは18ページと簡素な作りだが、内容は日本昔話の他に、動物や乗り物、地理や外国童話を取り混ぜたものとなっている。著者も、初山滋、武井武雄の他、本田庄太郎、村山知義など、童画家協会や、前年に始まった『キンダーブック』の仲間が顔をそろえている。また巻末には、野口雨情の「絵の教育」と題した文章が載せられている。

# ミエバウヒヨッコ

昭和6年 文：大木敦夫 画：吉見亨二 采文閣刊

# ネコバシッコ

昭和7年 文：大木敦夫 画：村山知義 采文閣刊

世界の代表的な昔話一篇を1冊に組んだ『絵噺世界幼年叢書』のうちの2冊。小冊、堅表紙、やや厚手の装丁。洋画系の淡い色彩の挿絵が、安らぎと素朴で清楚な感じを与えるシリーズ。昔話は全て白秋門下の大木敦夫によって書かれ、画家は、小丸俊夫、石橋武助、中西義男など、あまり挿絵を手掛けない洋画家が起用された。

# オトギカワリエ・ソングクウ

昭和5年 文：千葉省三 画：川上四郎 鈴木仁誠堂刊

ページの一部を動かすと絵が変わるしかけ絵本。「オトギカワリエ」シリーズとして、他に『モモタロウ』や『ハナサカチイサン』などが出版された。

著者の千葉省三は雑誌『童話』を創刊、画の川上四郎は『童話』の表紙、口絵、挿絵などの一切を担当した。

# 赤ハッポ書ハッポ

昭和9年 文・画：武井武雄 鈴木仁誠堂刊

昭和9年に『マンガ朝日』で50回連載されたもの。赤鬼と青鬼が人間社会に適応していくことの失敗や成功を、小学生の巻として愉快地繰り広げた。昭和10年からは『日本小学生文庫』（監修：山本有三 発行：新潮社）に中学生の巻を連載した。

1ページに4つの文とそれに合わせた4つのコマ割りの絵。

著者の武井武雄は、初めて「童画」という言葉を用い個展を開いた人物。